

科 目	週 時 数
論理国語	2 時間

目 標	実社会において必要となる,文章を論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を養う。	
	知識 技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
	思考 判断 表現	論理的, 批判的に考える力を伸ばすとともに, 創造的に考える力を養い, 他者との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性 協働性 多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに, 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ, 我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め, 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【自己と他者】『贈り物』としてのノブレス・オブリー 【コミュニケーションの手段】『記号的メディアと物理 【メディアの変容】『ポスト真実時代のジャーナリズム 【言語の探究】『人を指す言葉－自称詞・対称詞・他	・論理的な文章を読んで, 筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解し, 自身の考えと比較する。 ・教科書所収の文章を素材に, 言語活動を行い, 実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して, 実践的な読解スキルの向上をはかるとともに, 様々なタイプの問題文に触れ言語感覚を養う。
2 学期	【政治と社会】『多数決を疑う』 【存在への問い】『日常に走る亀裂』 【環境へのまなざし】『生物多様性の恩恵』 【歴史と時間】『無常ということ』	・論理的な文章を読んで, 筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解し, 自身の考えと比較する。 ・教科書所収の文章を素材に, 言語活動を行い, 実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して, 実践的な読解スキルの向上をはかるとともに, 様々なタイプの問題文に触れ言語感覚を養う。

授業の形態	一斉授業・グループワーク 等
主たる教材	『論理国語』(大修館書店)
副教材	「共通テスト対策 現代文完答22」「共通テスト対策 新しい第3の現代文 集中完答11」(ともに尚文出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト, レポート, 課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと, 学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ, 学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
文学国語	2 時間

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
育 っ て たい 力	知識 技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	思考 判断 表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性 協働性 多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	「桜の中で、ときが重なり合う」 「鍋セット」 「赤い繭」 「藤」	<ul style="list-style-type: none"> ・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学 期	「檸檬」 「舞姫」 「冥途」 その他 問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。

授業の形態	一斉授業・グループワーク 等
主たる教材	『文学国語』(大修館書店)
副教材	「完成 現代文」(尚文出版),「共通テスト対策 現代文完答22」(尚文出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト,レポート,課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到 達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
古典探究	3 時間

目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、以下のとおり育成することを目指す。	
	知識技能	生涯に渡る社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	思考判断表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典の文章を通した先人のものの見方、感じ方や考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性協働性多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って古典に親しみ自己を向上させ、我が国の伝統文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【古文／説話】『古今著聞集』 【漢文／故事・逸話】「水魚の交はり」 【古文／随筆・物語】『枕草子』『大鏡』 【漢文／思想】『論語』『荘子』	・古文並びに漢文の様々な文章を読み、日本語としての言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解力の向上を図る。
2 学期	【古文／説話】『今昔物語集』 【漢文／思想】『墨子』『韓非子』 ※2学期中間試験終了後は、共通テスト対策の問題演習を行う ※使用テキストー完成古典・共通テスト対策古典完答22	・古文並びに漢文の様々な文章を読み、日本語としての言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、応用的な言語運用能力を養う。 ・問題演習の時間や数を増やし、共通テストに対応した総合的な読解力並びに設問対応力を養う。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	『古典探究古文編』『古典探究漢文編』(大修館書店)
副教材	『これからの古典文法』『古典文法練習ノート』(尚文出版)『漢文学習必携』『漢文学習必携 総合演習ノート』(旧京都書房)『核心古文単語 351』(尚文出版)『完成古典(古文・漢文)』『共通テスト対策 古典完答22』(尚文出版)等
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、課題提出、課題に沿った発表等を随時実施

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って、全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って、指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習のポイントの内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習のポイントの問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
日本史探究	3 時間

目 標	我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養う。また、我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。	
育 っ て たい 力	知識 技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
	思考 判断 表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性 協働性 多様性	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第3部 近世の日本と世界 第2章 幕藩体制の成立と展開 第3章 近世の国家・社会の変容 第4部 近現代の地域・日本と世界 第1章 開国から倒幕へ 第2章 明治維新 第3章 近代国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。 ・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の時代の転換を理解する。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。
2 学期	第4章 両大戦間の日本 第5章 十五年戦争と日本 第6章 戦後日本の形成 第7章 グローバル化のなかの現代日本	<ul style="list-style-type: none"> ・学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などを基に、近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解する。 ・恐慌と国際関係などを基に、第二次世界大戦に至る過程を理解する。 ・軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。 ・我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『日本史探究』(実教出版社)
副教材	『日本史探究 マイノート』(実教出版社)、『詳説日本史図録 第10版』(山川出版社)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の歴史的事象を関連付けて理解し、説明出来る
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解出来る

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
世界史探究	3 時間

目 標	地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える。	
育 っ た い 力	知識技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考判断表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性協働性多様性	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	D 諸地域の結合・変容 (1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	・諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけるとともに、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現させる。
2 学期	E 地球世界の課題 (1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 (4) 地球世界の課題の探究	・国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現させる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習、ペア学習、ICTを活用した学習
教科書	『世界史探究』(実教出版社)
副教材	『世界史探究 マイノート』(実教出版社)、『アカデミア世界史』(浜島書店)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、発表、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の歴史的な事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
社会探究S日本史(設定)	2 時間

目 標	我が国の文化の展開を各時代の社会的・政治的背景をふまえて考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。また、我が国の近代以降の歩みを考察し、現代社会が抱える諸問題とのつながりや関連性に着目して、歴史的思考力を養う。	
	知識技能	我が国の各時代の文化の成立過程および特徴について、史資料を用い、時代背景や我が国を取り巻く国際環境などを互いに比較しながら理解する。 我が国の近代以降の歩みと現代社会の諸問題について、史資料を用いながら理解を深める。
	思考判断表現	我が国の各時代の文化の成立過程や特徴について、国内の情勢や対外関係を踏まえながら多面的・多角的に考察する。 現在、我が国を取り巻く諸問題について、我が国の近代以降の歩みを学ぶことを通して、その背景や関連を考察する。
	主体性協働性多様性	我が国の文化や伝統、現代の諸問題に対する関心を高め、主体的に追究することを通して、国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	1. 古代の政治・社会・文化 2. 中世の政治・社会・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・原始～中世に関して、史資料の有効的な活用により、読解力と歴史的思考力を高める。 ・各時代の文化の特徴を相互に比較し、共通点や違いを考えながら学ぶことで理解を深める。
2 学期	3. 近世の政治・社会・文化 4. 近世以降の政治・社会・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の文化の特徴を、その背景となる社会および政治の状況や対外関係と関連付けて学ぶことで深く理解する。 ・近世～近現代に関して、史資料の有効的な活用により、読解力と歴史的思考力を高める。 ・戦後史の学習を深めることで、現代社会につながる課題とその解決の方向について考える。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	自作教材
副教材	詳説日本史図録 第10版(山川出版社) 進研WINSTEP 日本史探究[新課程版](ラーズ)
評価の方法	定期試験と平常点(成果物、小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元毎の振り返りを確実にを行い、全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	史資料を読み取り、内容を完全に理解できる。歴史的事象の背景・因果関係を考察し適切に説明できる
	60%	史資料を読み取り、内容を理解できる。歴史的事象の背景・因果関係を正しく理解できる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
社会探究S世界史(設定)	2 時間

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	
	知識 技能	各世紀ごとの世界史の諸事象の基本的知識を理解している前提に立ち、それぞれの事象をより深く関連付けて考察する技能を身につける。
	思考 判断 表現	世界史の諸事象から課題を見出し、それを多角的に深く考察する。
	主体性 協働性 多様性	世界史を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に深く考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	①古代の世界 ②前2世紀の世界 ③後2世紀の世界 ④8世紀の世界 ⑤13世紀の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域で成立した文明の共通点と相違点を、演習を通して理解する。 ・ユーラシア各地で栄えた諸王国が、3つの交易路を通して交流したことを、演習を通して理解する。 ・モンゴル帝国の発展が東西交流を促進させる契機となったことを、演習を通して理解する。
2 学 期	⑥16世紀の世界 ⑦18世紀の世界 ⑧19世紀の世界 ⑨20世紀の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代の到来により、西欧・イスラーム圏・東アジア諸地域が相互に関係を深めることになった過程を、演習を通して理解する。 ・産業革命・帝国主義時代・2つの世界大戦を経て諸地域が緊密に連携するに至る過程を、各地域の特徴の把握とともに演習を通して理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペアワーク
主たる教材	演習プリント(自主教材)
副教材	アカデミア世界史(浜島書店) 進研WIN STEP世界史探究(ラーズ)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	ICTを活用した研究発表を行う

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元毎の振り返りを確実にを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	演習プリントの重要語句の関連性を系統立てて理解できる
	60%	演習プリントの重要語句を理解できる

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
政治・経済	3 時間

目標	現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	
	知識技能	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べられる。
	思考判断表現	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を理解するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断することができる。
	主体性協働性多様性	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、より積極的な役割を果たすことができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則と展開 第2節 日本国憲法と基本的人権 第3節 日本の政治機構 第4節 政治参加と民主政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立や協調などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 民主政治の本質の理解を基に、世界の主な政治体制と関連させながら、現代政治の在り方について多面的・多角的に考察し、表現している。
	第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きとしくみ及び租税などの意義、金融の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。
2 学期	第2章 現代の経済 第2節 現代経済のしくみ 第3節 日本経済と福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現できる。
	第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治の動向 第2節 国際経済の動向 第3節 国際社会の課題と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土等に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、わが国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。
		<ul style="list-style-type: none"> 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『政治・経済』(数研出版)
副教材	政治・経済整理ノート(数研)、ズームアップ公共資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書と社会的事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
社会探究S公民(設定)	2 時間

目 標	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、社会の複雑さや多様性を理解し、より持続可能な社会の実現に向けた知見や洞察す資質を養う。	
育 っ た い 力	知識 技能	公民的分野の基本的知識を理解している前提に立ち、それぞれの事象をより深く関連付けて考察する技能を身につける。
	思考 判断 表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済、倫理に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を見出し、それを多角的に深く考察する。
	主体性 協働性 多様性	公民を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に深く考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	政治経済分野 ①主権者について ②経済主体について ③国際社会について	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者が自らの権利や責任を理解し、民主主義的な社会に積極的に参加する能力を養い、主権者としての意識を育む。 ・経済主体(家計、企業、政府)の個人、団体などの主体が経済活動に参加することで、資源の配分や価値の創造、経済成長などがどのように実現されるかを理解する。 ・国家間の関係や相互作用、国際社会における政治的なプロセスや問題に焦点を当て、国家が国際舞台で互いに影響し合い、協力や対立を通じて権力や利益を追求する過程を理解する。 ・国境を越えた経済的な活動や相互依存関係について、国家間の貿易、投資、通貨の流通、労働移動などの現象を理解する
2 学期	倫理分野 ①宗教について ②思想家研究①(世界) ③思想家研究②(日本)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方を手がかりとしながら、人間の存在や価値について思索を深める。 ・世界の思想家について探求することで、人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間のありかた、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、自己の生き方にかかわる課題として考えを深める。 ・日本の思想家について探求することで、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としてのあり方生き方について自覚を深めさせる。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペアワーク
教科書	演習プリント(自主教材)
副教材	ズームアップ公共資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	ICTを活用した研究発表を行う

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元毎の振り返りを確実にし、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教科書と社会的事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> •運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 •様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 •ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 •ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 •安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> •運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 •ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 •ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 •安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
英語コミュニケーションⅢ	4 時間

目標	日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 1. 必要な情報を聞き・読み取り、話・文章の展開や話し手・書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝え合うことができ、会話を発展させることができる。また、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 3. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。
----	--

育てたい力	知識技能 まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考判断表現 書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
	主体性協働性多様性 日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed? Unit 2 How can we use AI to improve education? Unit 3 What do folktales tell us about human values? Unit 4 What items would you place in a time capsule? Speaking Strategies 1 Writing Strategies 1	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈学習方法／仕事に有効な考え方・習慣について考える〉 〈AIの進化と活用、社会への影響を考える〉 〈文化人類学の観点から、世界の民話の特徴や類型を学ぶ〉 〈「タイムカプセル」に残された物から何を学べるか、未来に向けて何を残したいかを考える〉
2 学期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? Unit 6 How can art be made accessible to all? Unit 7 How can we preserve life below water? Unit 8 Is there anything money can't buy? Speaking Strategies 2, 3 Writing Strategies 2, 3	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈様々な事例から、異文化の中で暮らすことの意義と困難について考える〉 〈だれもが楽しめる芸術のり方について考える〉 〈持続可能な社会のための資源の開発や養殖の取り組みについて知る〉 〈スポンサーシップや命名権などの金銭と倫理の問題について知る〉

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	Enrich Learning English Communication III (東京書籍)
副教材	READING CORE for 共通テスト別冊ノート付き (啓隆社) 2026 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リーディング)40minutes×14 (ラーズ)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
論理・表現Ⅲ	2 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
育 っ たい 力	知識 技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 筆者の意図などを正確に理解して、文章を批判的に読むことができる。 日常生活についての情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別しながら理解できる。
	思考 判断 表現	日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 英語のネイティブスピーカーの先生と、本や映画など馴染みのある話題であれば、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Lesson 1 A City Worth Visiting Lesson 2 Our Hometowns Lesson 3 What Makes a City Attractive? Lesson 4 How Do You Spend Your Time? Lesson 5 Trying Something New Lesson 6 The Art of Translation	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 受動態・動詞・助動詞・形容詞／副詞・比較
2 学期	Lesson 7 Combatting Climate Change Lesson 8 Future Energy Sources Lesson 9 Discussing the Environment Lesson 10 Globalization and Immigration Lesson 11 What is Fair Trade? Lesson 12 Helping to Fight Poverty	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 関係詞・不定詞・動名詞・分詞

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	be CLEAR English Logic and Expression Ⅲ (いっいずな書店)
副教材	三訂版 入試必携英作文 Write to the Point本冊・詳解 (数研出版) 2025 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リスニング)30minutes×7 (ラーンズ)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語探究Sb(設定)	4 時間

目 標	様々な場面設定の中で、学んだことを積極的に活用するにはどうすればよいのかを学ぶ。英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。言語の使用場面に応じた適切な表現を選択し、英語を通して自己表現する能力の向上を図る。英語理解の根幹としての発音、リスニング、文法の発展的内容について研究する。国際社会に通用する英語運用能力を養う。	
育 っ て たい 力	知識 技能	表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについての英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解することができる。また英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深め、自らの考えを発信することができる。
	思考 判断 表現	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして、適切に表現することができる。問いかけに対し即時応答することができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	[OVER ALL] ・Unit 1 アート ・Unit 2 食料危機 ・Unit 3 言語 Unit 4 同調と合理性 ・Unit 5 老後 ・Unit 6 集会的知性 ・Unit 7 話し方 ・Unit 8 企業の社会的責任 [All Ears] ・L1 Describing Picture ・L2 Describing Situations ・L3 Situational Dialogues ・L4 Troubles ・L5 Health ・L6 Map ・L7 Responses ・L8 Family Conversations ・L9 Calculations ・L10 Talking on the Radio	・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。 ・文章中の考えを論理的にまとめる。 ・相手の考えを理解し、同意、あるいは反論などの意見を、筋道を立てて話すことができるようにする。
2 学期	[OVER ALL] ・Unit 9 歴史 ・Unit 10 宇宙飛行士 ・Unit 11 科学的手法 ・Unit 12 気質 ・Unit 13 遠隔学習と対面学習 ・Unit 14 指計算 ・Unit 15 感情 [All Ears] ・L11 Advertisement ・L12 Traveling ・L13 Reading the Table ・L14 Grasping the Main Point ・L15 Reading the Graph ・L16 Selecting the Best Match ・L17 Speech ・L18 Biography ・L19 Discussion ・L20 Lecture	・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。 ・グループディスカッションの中で自分の考えを他者に的確に伝えることができる。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
主たる教材	OVER ALL 5 英語総合問題集 改訂版(Z会) リスニング問題集オールイヤーズPre Advanced (美誠社)
副教材	Scramble英文法・語法(旺文社) その他
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「OVER ALL 5」の解答とその考え方のプロセスを理解している「All Ears Pre Advanced」の英語音声に対し、すべての英文をディクテーションすることができる
	60%	「OVER ALL 5」の解答とその考え方のプロセスをほぼ理解している「All Ears Pre Advanced」の英語音声に対し、8割程度の英文をディクテーションすることができる

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・クリュニー修道院 ・スコラ学 ・マリア崇敬 各福音による発展 ・教皇のバビロン捕囚 ・ウイクリフとフス ・東西教会の分裂 ・東方正教会 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・エラスムス ・ルネサンスとその時代 ・エックハルトとフロレーテ ・宗教改革 ルター ・改革派の体系化 カルヴァンによる 	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書の翻訳と、人文主義的立場を学ぶ。 ・神なき文化から魂の救いを考える。 ・ドイツとオランダの神秘主義思想を知る。 ・塔の体験、95ヶ条の提題を学ぶ。 ・スイスの宗教改革の特質を学ぶ。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	キリスト教の歴史
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ た い 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	個人またはグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	自分の興味関心や希望進路に沿って設定した課題について、その解決のために何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	「課題研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、論文にまとめ発表する。 また、探究活動の成果を外部コンテストでの発表に向けて準備を進める。
2 学 期	「課題研究」	これまでの探究活動を踏まえ、社会課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかについて考えることを通して、次の進路に向けて自らの考えを表現する。

授業の形態	個人の探究活動 ワークショップ
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする